



諏訪湖通信74号

令和6年8月20日号 発行: 諏訪湖創生ビジョン推進会議



「水辺で乾杯 in 諏訪湖 2024」開催 (イベント事務局: (一社) 諏訪湖ミスベリング振興協会)

7月7日午後7時7分の「水辺で乾杯」が全国的に始まって、今年で10年目。諏訪湖でも、これまで有志による乾杯はありましたが、今年は「諏訪湖かわまちづくり上諏訪地区協議会」主催で実施されました。今年は諏訪湖畔の一部で河川空間のオープン化区域が指定された年でもあるため、湖畔利活用の方法例として、キッチンカーや露店の出店、音楽ライブ、電動キックボード試乗会に加え、自由に休憩できるテント・イスの設置も実験的に実施しました。当日の日中は酷暑で人も少ない状況でしたが、乾杯タイムには諏訪湖ラバー(ミズベリスト)老若男女70名余が集まり、カウントダウンの打ち上げ花火とともに大いに盛り上がりました。参加者からは、“今後も四季折々に乾杯したい!”なんていう声も聞かれました。今後、諏訪湖畔のオープン化をさらに推進するためには区域内での寒暑・風対策、露店での火気使用制限の緩和、資機材の仮保管場所確保などが課題として見えてきました。



(打ちあがる花火と乾杯の様子)



(露店・電動バイク試乗会の様子)

手作業によるヒシ除去作業 4日間で延べ209名参加

諏訪湖創生ビジョン推進会議では、湖岸域の貧酸素化や枯死による底質環境の悪化、船の運航障害、景観の悪化等の問題を生じさせるヒシの大量繁茂の対策として、官民協働で手作業によるヒシの除去作業を行っています。

令和6年度は、7月12日、13日、19日、20日の4日間、諏訪市セーリング協会と諏訪湖漁業協同組合の皆様にご協力いただき、初島周辺で刈取作業を行いました。推進会議の構成員のほか、一般の方にも多数ご参加いただき、延べ209名で計8.5トンのヒシを刈り取りました。



(手作業によるヒシ除去の様子)



また、7月13日(土)には、ヒシの除去作業に先立ち、水産試験場諏訪支場にご協力いただき、水草学習会と稚エビの放流体験を行いました。上諏訪中学校や諏訪市のゆめプロ(すわ未来創造「子どもゆめプロジェクト」)メンバーのほか、多くの子どもたちにご参加いただきました。



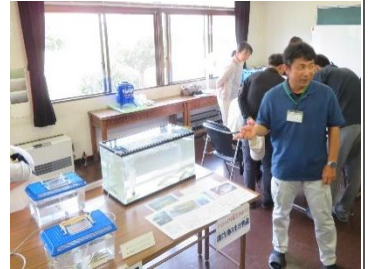
(水草学習会の様子)

「水産試験場 諏訪支場 夏休み特別開放」に参加しました

令和6年7月25日(木)、一般の方(小学生以上)向けに開催された諏訪支場での仕事を紹介するイベントに参加しました。会場では、諏訪湖に生息する魚・エビが種類ごとに水槽に分けられ、特徴や生息状況などについて研究員の解説を聞きながら観察することができました。



(水槽展示の様子)



(解説する川之辺支場長)

また、顕微鏡でプランクトンを観察することもでき、見学に来ていた小学生は初めての顕微鏡の操作に苦慮しながらも研究員の丁寧な指導の下、熱心に顕微鏡を覗き込み普段見ることのない世界を堪能している様子でした。この他、エビや魚の稚魚の放流イベントも実施され、諏訪湖と人と魚とのつながりを身近に感じることができました。



(顕微鏡操作を教わる小学生)



(放流する稚エビ・稚魚)

第76回諏訪湖祭湖上花火大会 開催

8月15日(木)、諏訪湖の夏の風物詩でもある花火大会が盛大に開催されました。初の南海トラフ地震臨時情報「巨大地震注意」の呼びかけもあり、緊急時への準備をしたうえで開催となりましたが、今年も豪華絢爛な大輪の花火が諏訪湖の夜空を彩りました。花火が打ちあがる一瞬一瞬が記憶に刻まれ、大勢の人たちにとって最高の夏の思い出になりました。



諏訪湖創生ビジョン推進会議は、「人と生き物が共存し誰もが訪れたいくなる諏訪湖」の実現を目指し取り組みます。
事務局: 諏訪地域振興局企画振興課 TEL: 0266-57-2901